平成28年2月19日	
第17回 教務委員会	
資料 (学務課)	11-1

博士論文のiThenticateを使用したチェックについて

(研究倫理委員会)

1. 背景

近年、研究活動における不正行為の事案が後を絶たないことから、日本学術会議では、「科学者の行動規範について」（平成18年10月3日制定、平成25年1月25日改訂）で声明し、また、文部科学省では、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（平成26年8月26日、文部科学大臣決定）を定め、責任のある研究活動を求めている。

本学では、それらに対応し、「研究者倫理の基本方針」及び「国立大学長岡技術科学大学における研究活動に係る不正行為に関する規則」を定め、不正行為が起こりにくい環境を整えてきた。

研究活動における不正行為の一部では、剽窃や盗用といった不正行為が論文作成のなかで行われていることも事実であり、また、「引用や参考文献の表記を忘れてしまった」といった、まったく意図していない部分が剽窃と判断されるリスクもあり、論文の評価や信頼が失われることもある。

論文の発表・公開前に、チェックを行うことで、引用の表記もれをはじめとする意図しない剽窃や盗作が疑われる表現などを検出し、独自性に問題がない状態へ改善することが可能な「iThenticate」を導入し、本学の正当な努力の結果である学術成果を守るものである。

2. アカウントの配付

- ・教授、准教授、講師、産学融合特任准教授、特任教授、特任准教授に配付する（165人）。（助教は、教授のアカウントを共有する。）

3. ソフトの利用について

- ・博士論文とそれに伴う投稿論文についてのみ、チェックを義務付ける。
- ・学生のレポート等には使用しない。
- ・1アカウントあたりの使用文書数の利用制限は設けない。

4. 導入時期

平成28年度から導入する。

- ・博士論文については、9月修了予定者のものに適用する。

- ・投稿論文については、4月1日以降のものに適用する。

5. 説明会の開催

平成28年3月中に開催する。